

①事業名	【15】情動の科学的解明と教育への応用に関する調査研究	
②主管課及び関係課(課長名)	(主管課) 児童生徒課 (課長: 坪田 眞明)	
③施策目標及び達成目標	施策目標 2-2 豊かな心の育成 施策目標 2-3 児童生徒の問題行動等への適切な対応 達成目標 2-2-3 2-3-6 子どもの情動等に関する科学的な研究の成果の教育への応用に関する調査研究を行い、その調査研究の成果の普及を図る。	
④事業の概要	本事業は、子どもの情動や心の発達に関する脳科学等の科学研究について、その成果を教育等へ応用するための方策(研究成果のスクリーニング及び教育現場と研究者の橋渡しの仕組み等)について調査研究を実施するものである。	
⑤予算額及び事業開始年度	平成18年度概算要求額: 14百万円(新規)	
⑥事業開始時において得ようとした効果	〔拡充事業の場合のみ記入〕	
⑦得られた効果	〔拡充事業の場合のみ記入〕	
⑧得ようとする効果及び上位目標との関係	【得ようとする効果】 子どもの情動や心の発達等に関する脳科学等の科学研究の成果について、教育等への応用が可能なものの検討及び教育現場と研究者との橋渡しの仕組み等について検討することによって、子どもの心の発達過程を踏まえた効果的な教育活動や子どもの健全な発達への支援に資することを旨とする。	⑨達成年度
		平成21年度
⑩必要性	平成15年度の児童生徒の問題行動等については、不登校児童生徒数が2年連続で減少する一方、いじめや暴力行為の発生件数が増加に転じており、引き続き教育上の喫緊の課題となっている。また、近年、真面目で大人しく見える、従来の生徒指導の対象となりづらい児童生徒が重大事件を起こしていることから、子どもの心の発達過程を踏まえた効果的な教育活動等を実施するために、子どもの情動や心の発達等についてのこれまでの研究成果を教育現場の指導へ活かす方策を検討していく必要があるが、このような検討については、学際間の連携、教育現場と研究者との連携、大学間の連携又は国際間の連携等が必要であり、全国的な対応が必要であることから、国として実施していく必要がある。	
⑪効率性	本事業の予算規模は14百万円であり、本事業の実施により、これまでの研究成果を教育現場等に活用が期待できるものについて調査研究を実施することで、科学的な根拠に基づいてモデルとなる教育活動を示唆することにより、約4万校の各学校現場でそれぞれ試行錯誤している教育活動が効率的になる。	
⑫想定できる代替手段との比較考量	本事業は、学際間の連携、教育現場と研究者との連携、大学間の連携又は国際間の連携等が必要であるとともに、国レベルでの研究の成果を全国に普及することとしていることから、各地域において個別に研究を実施するよりも効率的であると考えられる。	
⑬有効性	指標・参考指標	教育現場と研究者との連携状況
	効果の把握の仕方	文部科学省においてアンケート調査等を実施
	得ようとする効果の達成見込み及びその判断根拠	本調査研究の成果を通じて、教育現場と研究者との連携を促進することによって、各地域で行われている教育活動に科学的な裏づけを与え、さらに科学と連携した教育活動が実施されることが期待される。

⑭ 公平性、優先性	[政策の特性に応じて、必要により評価]
⑮ 評価に用いたデータ・情報・外部評価等	「生徒指導上の諸問題の現状について」(文部科学省調査) 「情動の科学的解明と教育等への応用に関する検討会」(文部科学省委託研究：審議中) 「脳科学と教育」研究に関する研究調査報告書(科学技術振興事業団)
⑯ 備考	

情動の科学的解明と教育への応用に関する調査研究

背景

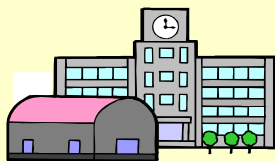
- ・平成15年度の児童生徒の問題行動等については、不登校児童生徒数が2年連続で減少する一方、いじめや暴力行為の発生件数が増加に転じており、引き続き教育上の喫緊の課題となっている。
- ・近年、真面目で大人しく見える、従来の生徒指導の対象となりづらい児童生徒が重大事件を起こしている。

子どもの心の発達過程を踏まえた効果的な教育活動等を実施するために、子どもの情動や心の発達等についてのこれまでの科学的な研究成果を教育現場の指導へ活かす方を検討していく必要がある。

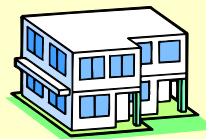
情動の科学的解明と教育への応用に関する調査研究

子どもの情動や心の発達に関する脳科学等の科学研究について、その成果を教育等へ応用するための方策(研究成果のスクリーニング及び教育現場と研究者の橋渡しの仕組み等)について調査研究を実施

教育現場との連携



科学的な研究



教育現場と科学者との連携

子どもの情動や心の発達等に関する脳科学等の科学研究の成果について、教育等への応用が可能なものの検討及び教育現場と研究者との橋渡しの仕組み等について検討することによって、子どもの心の発達過程を踏まえた効果的な教育活動や子どもの健全な発達への支援に資する